大手との価格競争の中、生き残りをかけて６次産業化に挑戦した採卵鶏経営

株式会社半澤鶏卵（採卵鶏経営・山形県天童市）

地域の概況

（株）半澤鶏卵が所在する天童市は、山形県のほぼ中央に位置している。山に囲まれた盆地特有の気候であるため、夏と冬、そして１日の昼夜の寒暖差が大きく、冬の降雪量は県内では少ない地域である。

農業は果樹栽培が盛んな地域であり、農業産出額の約78％を占める。畜産は、農業産出額が果樹、米に次ぐ第３位（7.3％）で、畜産戸数は、肉用牛10戸、乳用牛９戸、豚２戸、鶏１戸となっている。

経営・活動の推移

【経営の推移】

現会長の父が昭和35年に創業し、約500羽の採卵養鶏と卵の販売を開始したが、昭和45年に養鶏業を廃業し卸し専門に特化した。平成４年に有限会社半澤鶏卵を設立し法人化した。

父から経営移譲を受けた前年の平成16年に鶏卵生産調整が撤廃され、大手の県外採卵鶏業者が安値で山形県に参入し価格破壊が起き、県内の採卵鶏業界は大混乱に巻き込まれた。

これまで同様に、鶏卵の消費県というメリットを活かした卸業だけでは会社経営が成り立たず、付加価値の高い鶏卵生産を行い、流通・販売することが必要と考えた。

また、県内の養鶏会社より廃業による農場譲渡の相談があり、そこで働く従業員を引き受けることで、生産体制は早期に整えることができると考え、採卵鶏経営を再開することで生き残りを賭けようと決断した。

（写真１）社員との集合写真、前列右から５人目が半澤社長

【採卵鶏経営の再開】

～大手に対抗するため、付加価値の高い鶏卵生産に活路を～

大手との価格競争に対抗するため、付加価値の高い鶏卵を生産することが重要と考え、平成19年に東根市の羽入農場を取得し、採卵鶏飼育規模約２万羽で再スタートした。地域の名前と携わる全ての人と、ここで生産した卵を食べた消費者がしあわせになるようにと願いを込めて、「出羽の郷しあわせファーム」と名付けた。

その後、平成30年に河北農場を引き受け、令和元年に村山農場、東根大森農場を開設し、現在の生産基盤を確立した。

経営・技術の特色等

【卵の高付加価値化の取り組み】

～純国産鶏種への転換～

大手採卵鶏業者は、生産性が高い外国産鶏種を飼養し、低コスト・大量生産を行っている。当社では自社生産卵のブランド価値を高めるため、純国産鶏種の「さくら」と「もみ

（表１）経営活動の推移

年次	作目構成	飼養羽数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和35年	採卵鶏	採卵鶏500羽		・父（現会長）が半澤鶏卵を創業し、採卵鶏経営と卵の卸販売を開始
昭和45年				・養鶏業を廃業し、卸販売に事業転換
昭和56年				・現社長が大学卒業後、半澤鶏卵に就職
平成４年				・法人化し、有限会社半澤鶏卵を設立
平成17年				・会社の経営を父（現会長）から引継ぎ代表取締役に就任
平成18年				・鶏卵の６次産業（加工）の開始 ・スモッち（半熟燻製）の製造・販売
平成19年	採卵鶏	採卵鶏20,000羽		・出羽の郷しあわせファーム（東根羽入農場）で採卵鶏経営の再スタート決定
平成28年	採卵鶏	採卵鶏19,856羽	飼料用米7.0ha	・有限会社から株式会社に移行 ・耕畜連携により飼料用米の利用を開始 ・後継者が大学を卒業後、関連業種の経験のため鶏卵メーカーに就職
平成30年	採卵鶏	採卵鶏26,968羽	飼料用米3.7ha	・河北農場、いではCOCCO、スモッちファクトリー開設 ・河北農場及びいではCOCCOに卵の自動販売機を設置
令和元年	採卵鶏	採卵鶏34,610羽	飼料用米5.4ha	・香港での商談会に参加し、輸出の取り組みを開始 ・村山手づくり平飼い農場・東根大森育成農場開設 ・自社農場の採卵鶏構成が純国産鶏種100％となる
令和２年	採卵鶏	採卵鶏34,637羽	飼料用米14.0ha	・経済産業省から地域未来牽引企業に選定される
令和３年	採卵鶏	採卵鶏37,854羽	飼料用米13.5ha	・食品産業優良企業等表彰の食品産業部門で農林水産大臣賞受賞 ・東根農場及び河北農場で農場HACCP認証を取得 ・香港へ本格的に輸出開始 ・後継者が事業継承と経営者のスキルを身につけるため、会社（（株）RISE）を設立し、代表取締役に就任
令和４年	採卵鶏	採卵鶏39,361羽	飼料用米15.9ha	・後継者が、日本卵業協会が認定するタマリエ（たまごのソムリエ）検定で最高峰となる「五ツ星タマリエ」の資格を史上最年少で取得
令和５年	採卵鶏	採卵鶏43,014羽	飼料用米18.1ha	・高擂テラスオープン ・スモッちファクトリーが食品安全管理規格JSF-Bを取得
令和６年	採卵鶏	採卵鶏43,086羽	飼料用米18.1ha	・後継者が第４回アトツギ甲子園で優秀賞を受賞
令和７年	採卵鶏	採卵鶏45,000羽		・後継者が鶏卵メーカーの「会社員」×RISEの「経営者」×半澤鶏卵の「事業継承」の３足の草鞋を経験し、年内に半澤鶏卵に就職予定

（写真２）村山農場の平飼いの様子

（写真３）こだわりの原料を使った飼料

じ」の２品種に注目し、外国産鶏種から徐々に切り替え、令和元年に純国産鶏種100％となった。

～飼養環境のこだわり～

自社４農場において、それぞれの立地や施設の特徴を生かして、鶏卵の生産を行っている。鶏にストレスを与えないように配慮することで、新鮮で美味しい卵を生産している。

河北農場では、県内唯一の「エンリッチャブルケージシステム」（アニマルウェルフェアに配慮した飼育）を導入した。さらに「パドクーリングシステム」を導入したことで、ケージ内の温度が上昇する夏場も鶏舎内を一定温度に保ち、快適な環境で卵を生産している。

また、村山農場では、鶏が自由に動き回れる平飼いで飼育し、１坪（3.3m^2）当たり10羽という広いスペースでアニマルウェルフェアに配慮した飼養環境となっている。

～飼料のこだわり～

「さくらたまご」については、遺伝子組換え作物の混入を排除した原料を使用し、さらに「平飼い卵　高擂」は抗酸化作用の高いアスタキサンチンや、卵に味とコクを与える成分を加え、黄身の色が濃いのが特徴のブランド卵として商品化している。

また、トウモロコシの代替として、県内産の飼料用米を給与したものは、黄身が白いのが特徴で、「いではのさくら白（別名：お米卵）」として食味および栄養価を高めた付加価値の高いブランド卵として販売を拡大している。

【生産性の高い経営】

鶏種、飼養環境、飼料にこだわって生産しているが、生産技術についてもより高いレベルを目指して、日々の飼養管理にあたっている。

令和６年度の実績は、採卵鶏100羽当たり年間鶏卵生産量1,858kg、飼料要求率2.08と高い成績であった。また鶏舎１m^{2}当たり採卵鶏飼養羽数が9.1羽と非常に少なく、ゆったりとした飼養環境において、高い生産性を実現している。

～幼雛導入から大雛導入への転換～

令和３年までは、自社で幼雛育成をしていたが、120日齢の大雛導入に変更したことで、育成鶏の事故率改善が図られた。さらに導入から産卵開始までの期間が短縮したことで、生産性も改善された。

【耕畜連携による飼料用米利用拡大】

平成29年に村山地域採卵鶏生産強化クラスター協議会を設置し、地域の稲作農家や農協、民間業者と連携し飼料用米の利用拡大を促進した。河北農場では地元の稲作農家２件と農協、民間業者が飼料用米の流通契約を締結し、令和２年度には目標値の６haを達成した。東

（表２）経営実績（令和６年度）

経営概要	労働力員数（畜産・2000hr換算）	家族・構成員	0.6人
		雇用・従業員	13.3人
	採卵鶏平均飼養羽数		43,086羽
	年間鶏卵生産量		800,378kg
	年間鶏卵出荷量		800,378kg
収益性	所得率		12.2%
	採卵鶏100羽当たり売上原価		536,831円
生産性	採卵鶏100羽当たり年間鶏卵生産量		1,858kg
	採卵鶏100羽１日当たり産卵量		5.1kg
	鶏卵１kg当たり平均販売価格		
	GP		243.8円
	産直		421.6円
	直販割合		100.0%
	採卵鶏100羽１日当たり飼料消費量		10.6kg
	飼料要求率	農場	－
		採卵鶏	2.08
	育成率（初生雛）		－%
	育成率（中大雛）		－%
	採卵鶏淘汰率		－%
	採卵鶏へい死率		19.50%
	採卵鶏補充率		－%
	鶏舎１m^2当たり年間鶏卵生産量		170kg
	鶏舎１m^2当たり採卵鶏飼養羽数		9.1羽

根農場についても民間業者の仲介のもと農家と契約した。その結果、令和６年度は２農場合計で18.1haの飼料用米の契約を締結した。

【安全安心への取り組み】

鶏卵の生産から加工販売までを行う企業として、安全性の確保と消費者からの信頼を得られるように努めている。農場部門においては、令和３年に東根羽入農場と河北農場の２農場で農場HACCPを取得した。他の２農場においても、農場HACCPに準じた管理を行っている。

加工部門においては、令和５年にスモッちファクトリーがHACCPに準ずる食品安全管理規格JFS-B認証を取得した。

【新鮮で美味しい鶏卵の販売体制の確立】

鶏卵の美味しさは、新鮮な流通が第一と考え、自社にGPセンターを２ヵ所に設置し、生産した鶏卵は全自動で洗卵・選別され、その日のうちに自社直売所での販売や加工原料に振り向けられている。

（表３）飼料用米の作付け面積の推移　（単位：ha）

区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
河北農場	0.0	0.0	0.0	0.0	6.4	6.0	6.4	6.4	6.4
東根農場	7.0	5.0	3.7	5.4	7.6	7.5	9.5	11.7	11.7
合計	7.0	5.0	3.7	5.4	14.0	13.5	15.9	18.1	18.1

（写真４）自社GPセンターによる迅速な流通

（写真５）新鮮な卵を購入できる自動販売機

また、消費者が新鮮な卵をいつでも購入できるように、卵の自動販売機を設置した。

このように生産から流通まで一貫しており、新鮮な卵を消費者へ届けることができるのが経営の強みである。

【６次産業化への挑戦】

～半熟燻製卵「スモッち」の誕生～

卵の付加価値を追求する中で、卵の加工に取り組み、半熟燻製卵「スモッち」を開発した。国際特許の燻製機を使い、じっくり燻製、熟成させることで、黄身の中まで風味がある商品に仕上がった。

全国放送のテレビ番組で取り上げられるなど、評判となり当社の看板商品に成長した。

その後も地域の企業と協力しながら、さまざまな商品開発を進め、卵かけしょう油やチキンジャーキーなど特徴のある商品が誕生している。

（写真６）半熟燻製卵「スモッち」

～加工品の製造・直営販売店の整備～

自社のこだわりの卵を販売する拠点として、平成30年に「いではCOCCO」をオープンした。鮮度の高い卵を販売しているほかに、カフェでは自社卵を使った料理やスイーツを提供している。また併設された加工施設では、ガラス越しにスモッちの製造の様子を見学することができる。

（写真７）直営販売店「いではCOCCO」

令和５年には、地元の天童市に地域の活性化を図るため２店舗目の「高擶テラス」をオープンした。高擶テラスでは平飼い卵のPR・販売を行っているほかに、アニマルウェルフェアの取り組みについて消費者へ普及啓発している。

６次産業化を進める中で、大きな投資判断も必要であったが、自社ブランドを高め、付加価値の高い卵や加工品を販売し、消費者に直接アピールできる場を持てたことは当社にとって大きな財産となった。

【海外輸出の取り組み】

令和３年から海外輸出を本格的に開始した。日本食ブームを追い風に、香港やハワイ、シンガポールへスモッちを輸出しているが、特にシンガポールは高度な衛生管理が必要であり、当社は鶏卵加工品を輸出できる数少ない企業の一つとなっている。

（写真８）輸出先の販売店にて

地域に対する貢献

【県内養鶏農家の所得向上支援】

県内の養鶏農家は小規模経営が多く、鶏卵生産の多寡が農家経営の不安定さに影響を及ぼしている。当社ではこのような小規模農家を支援するために、鶏卵の需要減少の場合は買い取りを行い、需要増加で鶏卵が不足する場合は他県から購入し、農家へ提供する取り組みを進めており、県内の養鶏農家が健全な経営を営めるよう調整弁の役割を果たしている。

【地域の雇用創出】

従業員75名のうちほとんどが地元採用で、女性の割合が約６割となっている。また、当社養鶏場の増加や自社直売所の整備等もあり、毎年のように職員採用を行っており、過去３年間で29名の従業員を採用している。

【耕畜連携による地域農業への貢献】

前述のように耕畜連携による飼料用米の利用拡大を促進している。

また、農場で発生した鶏糞については、堆肥化して、地域の農家に安価に販売している。

【地域の賑わいの創出】

地域の賑わいを創出したいという思いから、いではCOCCOでは「休日マルシェ」を開催し、多種多様な業態のお店が参加し、地域交流の場を提供している。

また、直営２号店の高擶テラスでは、県内外から観光客を呼び込み、賑わいの創出を図るため、キッチンカーを呼んだマルシェや、地元の農業者が出店する軽トラ市を開催している。

女性の活躍・働きやすい職場環境づくりの取り組み

【女性の活躍】

当社では男性より女性の割合が高く、働きやすい職場づくりのため、年代や生活スタイル、家庭の事情に応じて勤務時間を決めている。

また、実績のある女性は、役員や特別販売課長、農場の管理責任者として登用し、各部門のリーダーとして活躍してもらっている。

【定年制と再雇用の整備】

平成28年に就業規則を改正し、再雇用しやすい環境づくりに取り組んだ。働く意欲のある従業員の希望を叶えるとともに、技術や経験の継承を通じて会社の発展に貢献してもらっている。

【チャレンジできる社風】

「卵を通して地域社会へ貢献する」という挑戦を歓迎する社風を大切にしている。それが社員のチャレンジしやすさにつながり、数多くのアイディアが生まれ、スイーツなどの商品開発につながっている。

将来の方向性

【持続可能な採卵鶏経営を目指して】

持続可能な採卵鶏経営を目指して、外的要因に左右されない強い経営基盤が必要であると考えている。これまで、自社農場で生産したこだわりのある卵を中心に、加工、販売、海外輸出と展開してきたことで、強固な経営基盤が構築できた。さらに６次産業化を進めてきたことで、消費者との接点を拡大することができ、市場価格に左右されない自社ブランドの確立ができたと考えている。

経営の理念として掲げている『卵で人と社会を幸せにする』を実現していくために、これからも新しいことにチャレンジし続け、時代に左右されない独自性のある経営スタイルを確立させていきたい。